

由布市告示第127号

平成22年第2回由布市議会臨時会を次のとおり招集する。

平成22年10月19日

由布市長 首藤 奉文

- 1 期 日 平成22年10月26日
  - 2 場 所 挾間庁舎由布市議会議事堂
- 

○開会日に応招した議員

鷺野 弘一君	廣末 英徳君
甲斐 裕一君	長谷川建策君
二ノ宮健治君	小林華弥子君
高橋 義孝君	新井 一徳君
佐藤 郁夫君	佐藤 友信君
溝口 泰章君	西郡 均君
太田 正美君	佐藤 正君
田中真理子君	利光 直人君
久保 博義君	工藤 安雄君
生野 征平君	佐藤 人已君
渕野けさ子君	

---

○応招しなかった議員

なし

---

---

平成22年 第2回(臨時)由布市議会会議録(第1日)

平成22年10月26日(火曜日)

---

議事日程(第1号)

平成22年10月26日 午前10時00分開会

- 日程第1 会議録署名議員の指名  
日程第2 会期の決定について  
日程第3 承認第8号 専決処分の承認を求めることについて「平成22年度由布市一般会計補正予算(第5号)」  
日程第4 議案第80号 教育委員会委員の任命について  
日程第5 議案第81号 監査委員の選任について
- 

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名  
日程第2 会期の決定について  
日程第3 承認第8号 専決処分の承認を求めることについて「平成22年度由布市一般会計補正予算(第5号)」  
日程第4 議案第80号 教育委員会委員の任命について  
日程第5 議案第81号 監査委員の選任について
- 

出席議員(21名)

1番 鷺野 弘一君	2番 廣末 英徳君
3番 甲斐 裕一君	4番 長谷川建策君
5番 二ノ宮健治君	6番 小林華弥子君
7番 高橋 義孝君	8番 新井 一徳君
9番 佐藤 郁夫君	10番 佐藤 友信君
11番 溝口 泰章君	12番 西郡 均君
13番 太田 正美君	14番 佐藤 正君
15番 田中真理子君	16番 利光 直人君
17番 久保 博義君	19番 工藤 安雄君
20番 生野 征平君	21番 佐藤 人已君



ます。

---

午前 10 時 00 分開会

○議長（**渕野けさ子君**） みなさん、おはようございます。本日ここに、平成 22 年第 2 回由布市議会臨時会が招集されましたところ、議員各位には公私ともに何かとご多忙のなかご出席を賜り、厚くお礼申し上げます。気候の変わり目で風邪が流行しているようですが、みなさまにおかれましては、どうか健康管理には十分お気をつけ願います。さて、本臨時会は、同意 2 件、承認 1 件が提案されております。よろしくご審議方お願いいたします。それでは、本臨時会の開会にあたり、招集者であります市長より挨拶をいただきます。市長。

○市長（**首藤 奉文君**） みなさん、おはようございます。平成 22 年第 2 回臨時会の開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。今日は議員みなさまご出席をいただきまして、心からお礼を申し上げます。市内のほとんどの地域では稲刈り作業が終わりまして、本格的な秋を迎えているところでございます。ただ、今年の夏の稀にみる猛暑と、生育期間の雨不足の影響から、新米の品質と価格の低下が懸念されているところでございます。農家のみなさんをはじめ、働く方々が本当の豊かさを感じられる社会の実現を目指していかねばならないと強く思う次第であります。また、「記録的な」という言葉が、まるで日常になってしまうほどに自然が猛威をふるっておりまして、奄美地方を襲った大雨による甚大な被害も心配されるところであります。このような災害がいつ由布市を襲うともしれないという緊張感をもって、常に災害に対処出来る体制をとっておけねばならないと肝に銘じているところでございます。さらに、これも猛暑の影響からか、エサが不足して、市街地までクマが出没する事例が相次いで報道されておりますが、ここ由布市におきましても、イノシシやシカ等による農作物への被害が依然多くございまして、9 月の大分県市長会において提案をいたしました「鳥獣被害防止支援事業の継続・拡充を求める議案」におきまして、さきの九州市長会において、国や関係省庁に要望を行うことが決定されたところであります。さて、これから本格的な冬を迎えるにあたり、新型インフルエンザ等の感染拡大も懸念されるところであります。今回その対策のために専決処分をいたしました補正予算の承認をお願いする案件と、人事に関する議案を提案いたすことにしております。どうか慎重なご審議をお願いいたしますとともに、なにとぞご賛同いただきますよう重ねてお願い申し上げまして、開会にあたりましてのご挨拶にさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（**渕野けさ子君**） ただいまの出席議員数は 21 人です。定足数に達していますので、ただいまから第 2 回由布市議会を開会します。執行部より、市長、副市長、教育長、各部長、及び関係課長の出席を求めています。

---

■故・小野二三人議員のお別れの会

○議長（**渕野けさ子君**） 本日の議事日程に入ります前に、去る9月29日にご逝去されました故・小野二三人議員のお別れの会を執り行いたいと思います。最初に、由布市を代表しまして、首藤市長からお別れの言葉をいただきたいと存じます。市長。

（市長、演台へ登壇）

○市長（**首藤 奉文君**） 本日ここに、由布市議会議員、小野二三人氏のお別れの会が執り行われるにあたりまして、謹んで哀悼の言葉を捧げます。小野二三人議員、あなたが亡くなって、はや1月が経とうとしておりますが、こうして議場におりますと、あなたの声が聞こえてきそうでありますし、ついあなたの姿を探してしまいそうになります。9月25日、あなたが突然倒れたとの一報を受けまして、何かの間違いであってほしいと心を乱しながら、大分大学病院へ向かいました。そこには、ただ眠るばかりのあなたの姿があり、「二三人さん、はよう元気になりようえ」と耳元で話しかけましたが、あなたは目を開いてはくれませんでした。それからも気持ちの落ち着かない日々に、いてもたってもおられず、28日の議会閉会后、すぐに副市長とあなたを訪ねましたが、その日も私の呼びかけや家族の「意識を取り戻してほしい」という悲痛な願いに答えることはありませんでした。そして、翌29日、あなたを知る全てのみなさんの「一刻も早く回復してほしい」という願いは届かず、帰らぬ人となってしまいました。突然の、そしてまたあまりにも早すぎる永遠の別れに、全身の力が抜けていくような思いがいたしました。あなたは昭和41年に挾間町役場に奉職され、議会事務局長、農林商工課長、総務課長、教育次長といった要職を歴任されました。退職されてなお、地域を愛する心と、人を大事にしたいとの強い思いから挾間町議員に立候補され、見事当選されました。以来、谷地区はもちろん、町民の幸せと挾間町の発展のため、日夜、東奔西走されました。合併して由布市となり、立候補された市議会議員選挙でも上位で当選され、挾間地域のみならず、多くの市民から愛され、支持を受けられていたことが伺えました。市議会議員となられてからも、市民の幸福と地域の発展を願うあなたの一途な思いに変わることはなく、ただひたすら人のためご尽力をされている姿に、頭の下がる思いがいたしておりました。また、市におきましては、監査委員という重職をも担っていただき、豊富な行政経験による高い見識をもって、職員にも温かい助言をいただいております。思えば、倒れられてからの4日間は、地域のリーダーとして、そしてまた議員としてやらねばならないことがたくさんあった、まだ死ねないのだという強い意志があなたの命をつなぎ止めていたのではないかと、そう思いました。まさに議員の職責を全うするかのよう、定例会の閉会を見届け、天国へ行かれましたが、あのとき、あな

たの心はこの議場の18番の席にいらっしゃったのだと思えてなりません。いまはただ由布市発展のため、そして由布市民のために全力で頑張っておられたあなたに、市長として心から感謝の心を申し上げるばかりであります。本当にありがとうございました。私は、あなたの熱い思いと、これまでいただいた数々のご示唆を決して忘れず、由布市発展のために頑張りを抜くことをお誓い申し上げます。終わりに、小野二三人議員のご冥福を衷心よりお祈りし、またあなたがこよなく愛した由布市を天国からしっかり見守って下さることをお願い申し上げ、お別れの言葉といたします。平成22年10月26日、由布市長、首藤奉文。

(市長、演台から降壇)

○議長(瀧野けさ子君) ありがとうございました。

(議長、演台へ登壇)

○議長(瀧野けさ子君) 続きまして、由布市議会を代表しまして、私からお別れの言葉を申し上げます。いまは亡き、故・小野二三人議員に、由布市議会議員21名の真心を込め、謹んでお別れの言葉を申し上げます。きょうは議席番号18番の机には、もうあなたの姿は見られません。あなたはいつお目にかかっても、変わらない穏やかで誠実なお人柄は、誰もが認めるところで、2期目の市議会議員選挙でも、見事に上位で当選されました。挾間地域のみならず、多くの市民から愛され、支持されていたことが伺えます。昨年の改選後の役職では、監査委員という重職に就任し、豊富な行政経験をもとに適切なアドバイス等で職員に指導をいただきました。議員の使命であります市民との対話をこつこつと現場に出向いて重ねておられますお姿には、頭の下がる思いでいっぱいでありました。倒れる前日まで、あんなに元気なお姿で熱心な議論をした後、私に「福祉施策を後退させないで」と熱い視線で語りかけてただけに、再びあなたの勇姿を見ることが出来ないことは、未だに信じられない気持ちでいっぱいあります。あなたのその強い意志を大切にしながら、議員全員一丸となって取り組む覚悟であります。どうか天国の彼方から、奥さまやご家族のみなさまと同様に、この由布市を見守っていただきますようお願いいたします。惜別の情は尽きませんが、改めてご生前のご功績に敬意を表するとともに、あなたの在りし日の勇姿を偲びながらお別れします。どうか安らかにお眠り下さい。平成22年10月26日、由布市議会議長、瀧野けさ子。

(議長、演台から降壇)

○議長(瀧野けさ子君) 本日ご出席のみなさんとともに、故・小野二三人議員のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げたいと思います。みなさん、ご起立をお願いいたします。黙祷。

(黙 祷)

○議長(瀧野けさ子君) 黙祷を終わります。ご着席願います。これもちまして、故・小野二三人議員のお別れの会を終了させていただきます。

---

○議長（**渕野けさ子君**） これから議事日程に入ります。本日の議事日程はお手元に配付の議事日程第1号により行います。これから本日の会議を開きます。

---

#### 日程第1. 会議録署名議員の指名について

○議長（**渕野けさ子君**） まず日程第1、会議録署名議員の指名を行います。本臨時会の会議録署名議員は、会議規則第81条の規定により、16番、利光直人君、17番、久保博義君の2名を指名します。

---

#### 日程第2. 会期の決定について

○議長（**渕野けさ子君**） 次に日程第2、会期の決定についてを議題とします。本臨時会の会期は、本日1日限りにしたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（**渕野けさ子君**） 異議なしと認めます。よって、会期は本日1日限りと決定いたしました。

---

#### 日程第3. 承認第8号 専決処分の承認を求めることについて「平成22年度由布市一般会計補正予算（第5号）」

#### 日程第4. 議案第80号 教育委員会委員の任命について

#### 日程第5. 議案第81号 監査委員の選任について

○議長（**渕野けさ子君**） 次に、本臨時会に提出されました、日程第3、承認第8号、専決処分の承認を求めることについて「平成22年度由布市一般会計補正予算（第5号）」から日程第5、議案第81号、監査委員の選任についてまで、3件を一括上程します。市長に提案理由の説明を求めます。市長。

○市長（**首藤 奉文君**） それではただいま上程されました議案につきまして、一括して提案理由をご説明申し上げます。本臨時会でご審議をお願いいたします案件は、承認1件、人事案件2件でございます。承認第8号、平成22年度由布市一般会計補正予算（第5号）の専決処分の承認を求めることについては、歳入歳出それぞれ26,884千円を追加いたしまして、予算総額17,751,008千円といたしております。衛生費の保健衛生費への追加でございます。新型インフルエンザワクチン接種の助成事業として、市内の低所得者世帯、及び18歳以下の方に対する接種費用を助成するもので、医師会等との協議が整い、流行前の接種が必要なことから、10月12日付けで専決処分を行ったものでございます。議案第80号の

教育委員会委員の任命につきましては、教育委員であります清永直孝氏が、平成22年11月18日をもって任期が満了するものによるものでございます。清永氏は平成20年第3回臨時会で、教育委員会委員への任命にご同意をいただき、教育長となり現在に至っておりますが、その間に学力向上、施設的环境整備、連携型中高一貫教育の推進、学校規模の適正化、あるいは生涯学習等、由布市の教育行政に果たされた功績は多大なものがございます。こうした功績を含めた、総合的な判断によりまして、引き続き委員に任命いたしたく、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第1項の規定により、再任についての議会の同意を求めるところでございます。議案第81号、監査委員の選任については、小野前監査委員が亡くなりましたことから、市議会議員から選任される監査委員の欠員が生じたために、議会より推薦をいただきました。田中真理子議員を、地方自治法第196条第1項の規定により、選任することの同意を求めるところでございます。詳細につきましては、担当部長、課長から説明をさせますので、なにとぞご慎重なる審議のうえ、ご賛同いただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（**渕野けさ子君**） ただいま上程されました承認第8号、専決処分の承認を求めるところについて「平成22年度由布市一般会計補正予算（第5号）」について、詳細説明を求めます。財政課長。

○財政課長（**秋吉 孝治君**） 財政課長でございます。それでは承認第8号をお願いいたします。承認第8号、専決処分の承認を求めるところについて、地方自治法第179条第1項の規定により、平成22年度由布市一般会計補正予算（第5号）を別紙のとおり専決処分したので、同条第3項の規定により、これを報告し承認を求めます。平成22年10月26日提出、由布市長。次のページをお開き下さい。専決処分書。下記の件について、地方自治法第179条第1項の規定により、議会の議決すべき事件について、特に緊急を要するため、議会を招集する時間的余裕がないことが明らかであると認め、専決処分する。平成22年度由布市一般会計補正予算（第5号）。平成22年10月12日、由布市長。理由につきましては、緊急に対応する必要が生じたためでございます。それでは、次の次のページをお開き下さい。平成22年度由布市一般会計補正予算（第5号）。平成22年度由布市一般会計補正予算（第5号）は、次に定めるところによる。歳入歳出予算の補正。第1条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ26,884千円を増額し、歳入歳出予算の総額を、歳入歳出それぞれ17,751,008千円と定める。2項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額、並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、第1表、歳入歳出予算補正による。平成22年10月12日専決、由布市長。それでは最後のページ、6ページをご覧ください。歳出でございますけれども、4款の衛生費、1項保健衛生費、4目の予防費でございます。今回の補正額につきましては、26,884千円の追加でございます。節の方をご覧ください。13節の委託料でございますけれども、



22, 284千円計上いたしております。これにつきましては、インフルエンザ混合ワクチン接種業務ということで、低所得者に対するもので、国が2分の1、県が4分の1、市が4分の1ということで、自己負担なしで接種をするものでございます。次に20節の扶助費をご覧ください。4,600千円計上いたしております。これにつきましては、18歳以下の市民に対するもので、市が1回あたり1千円を助成するものでございます。特定財源としまして、国庫、県費を合わせまして県補助金として16,709千円を計上いたしております。市費の10,175千円につきましては、財政調整基金からの繰入金でございます。なお、65歳以上の方に対する助成は、当初予算で12,510千円を計上済みでございます。私からは以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（**渕野けさ子君**） お諮りします。ただいま上程され議題となっております各案件については、会議規則第37条第3項の規定により、委員会付託を省略し、全員による審議にしたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（**渕野けさ子君**） 異議なしと認めます。よって、委員会付託を省略し、全員による審議とすることに決定しました。これより審議に入ります。まず日程第3、承認第8号、専決処分承認の承認を求めることについて「平成22年度由布市一般会計補正予算（第5号）」を議題として質疑を行います。12番、西郡均君。

○議員（**12番 西郡 均君**） 専決処分書をご覧になって下さい。専決処分書は公文書であるにもかかわらず、文書番号がないんですね。一体どういう処理をしているかなと疑問に思うんですけども、それと専決処分書、あるいはまた下記の平成22年度由布市一般会計補正予算（第5号）については、これは真ん中、センターに持ってくるべきものなんですね。それと次の日付、平成22年10月12日というのは、左端に持ってくるもので、文書作成上はある程度決められているにもかかわらず、安易にずっと見過ごしていたんですけども、基本的にそういうことについてきちっとする気があるのか、それだけお答えいただきたいと思います。

○議長（**渕野けさ子君**） 財政課長。

○財政課長（**秋吉 孝治君**） お答えいたします。この専決処分書につきましては、合併後の議会で専決をした際に、専決処分の内容等、理由等が分からないということで書類をつけなさいということで、こういう専決処分書という書類をつけるようになったというふうに聞いております。書式につきましては、特に決まりがありませんで、任意で財政課の方がそういうご指摘に基づいて添付しているところでございますので、よろしくお願いいたします。

○議長（**渕野けさ子君**） 12番、西郡均君。

○議員（**12番 西郡 均君**） 答えになってないですよ。これを文書を出せと言ったのが私な

んでね、出せって言ったけども、どういう文書にするかっていうのはこっちは深く関与してないんですよ。しかし出されたものを見ると、これ極めて粗雑というんですか、いままでの文書の形式からおかしいから、こういうことを直してはどうですかということを行っているんですから、そういうことに検討するのかどうかだけきちっと答えて下さいよ。その開き直りを聞きに来たんじゃないんです。

○議長（**渚野けさ子君**） 財政課長。

○財政課長（**秋吉 孝治君**） 文書につきましては、総務課とも協議して検討いたします。

○議長（**渚野けさ子君**） 6番、小林華弥子さん。

○議員（**6番 小林華弥子君**） ちょっと内容についてお伺いしたいんですが、このインフルエンザ混合ワクチンの低所得者向けと18歳以下の分をそれぞれ計上しているということですけど、具体的に何名分くらいを予定しているのかということをお伺いしたいのと、あともう1点は市長の方の提案理由で、医師会との協議も整ったということだったんですけども、具体的にいつから接種出来るのか。去年ですね、国の方が先にインフルエンザワクチン接種始めますと言いながら、実際に医療機関にワクチンが届くまでにすごく時間がかかって、なんか情報がなかなか、いつから受けられるのか分からないというようなことで混乱があったと思うんですけども、具体的にはすぐに接種が始まっているのかということをお教え下さい。

○議長（**渚野けさ子君**） 健康増進課長。

○健康増進課長（**衛藤 義夫君**） 健康増進課長です。6番、小林議員さんのご質問にお答えいたします。まず低所得者の分でございますが、65歳以上が2,071名、13歳以下が1回目と2回目がございます。1回目が767名、2回目が767名、その中で1回で終わる方がございます。1回といたしますか、病院が変われば3,600円という負担が2,550円、そのへんが変わってきまして、それを10%見込んだ部分がございます。それと13歳から64歳が2,786名、あと市独自の分としまして、20節の扶助費でございますが、13歳以下が3,000人、13歳から18歳が1,590人ということで、受診率については60%を見込んでいますところがございます。以上です。（「時期、時期について」と呼ぶ者あり）すみません、失礼しました。時期につきましては、10月1日から要綱が改正されておりまして、由布市におきましては10月1日から遡り、遡及をさせていただいております。償還払いについては10月1日から、現物給付につきましては10月14日からということで、医療機関との協議が整っているところがございます。以上です。

○議長（**渚野けさ子君**） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（**渚野けさ子君**） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。これから討論を行い

ます。討論はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長(**渕野けさ子君**) 討論なしと認めます。これより承認第8号を採決します。本案は、これを承認することに賛成の方の起立を求めます。

(議員20名中20名起立)

○議長(**渕野けさ子君**) 起立多数です。よって、承認第8号、専決処分承認を求めることについて「平成22年度由布市一般会計補正予算(第5号)」は承認することに決定しました。次に、日程第4、議案第80号、教育委員会委員の任命についてを議題として質疑を行います。ここで、地方自治法第117条の規定に準じ、清永直孝君の退場を求めます。

(清永直孝君、退場)

○議長(**渕野けさ子君**) 質疑はありませんか。7番、高橋義孝君。

○議員(7番 **高橋 義孝君**) おはようございます。7番、高橋義孝です。それでは数点、市長の方にお伺いしたいと思います。まず私がどのような認識かということ申し述べて質疑をさせていただきたいと思いますが、任命の後、教育委員会が開かれて、教育委員さんの互選により清永氏が再度教育長になるんであろうという認識のもと、質問をさせていただきます。1点は、まず定例会ではなく、なぜこの臨時会なのかということです。これは平成20年の第4回臨時会、平成20年11月4日に臨時会が開催をされております。そのときも教育委員さんの任命について、なぜ臨時会なのかということで質問を同僚議員もされておりました。そのときの教育次長は、やはり定例会でやるのが筋であると。今後は事務手続きをきちっとして、定例会において提案をしたいというふうな答弁をされておりました。にもかかわらず今回またですね、再任ということであれば定例会でということが、前回議論されてるはずですね。確認をされているわけなんです。そのとき同僚議員が、いや、新任の方だと一市長が答弁です。ね一新任、替えるのであれば、2ヶ月も前に提案すると、あと2ヶ月間、あまり意思が低くなるのでというふうなやりとりがなされているんですね。今回再任にもかかわらず、なぜまた臨時会でご提案というふうなことになったのかというのが1点ですね。それと、地方分権時代における教育委員会のあり方についてということで、平成17年の1月に中央教育審議会、教育制度分科会の地方教育行政部会が中間のとりまとめを行っております。教育委員会のあり方について問題点等がかなり指摘をされておまして、その中でも教育委員の選任の改善ということで、従来の慣行にとらわれず、地域住民の代表として教育行政に深い関心と熱意を有する人材の登用に努める必要があるということも、ここで提案されております。教育長—また教育委員会事務局のあり方ということで、教育長や教育委員会事務局職員の学校教育関係ポストが教員出身者によって占められ、教員の立場を強く意識するものとなっているということも指摘

されています。私は教育出身者が悪いというふうに断定しているわけではなく、そういうことが指摘されているということなんです。この選任にあたって、市長はいつ、どのような選任過程を経て決められたのかというのをお聞きしたいんです。なぜそういうことを言うかという、その教育委員の選任の改善という部分で、委員選任において、広く適材を求めたり、住民の意向を反映するような工夫として、委員の候補者の公募や住民の推薦のほか、選考の過程を地域住民に公開する等の方法を取り入れている地域もあるということが言われているんです。なぜこの方を教育委員として推薦したいんだというふうな過程が、どのようなプロセスを経て、今回手続きをとられたのかですね。で、市長ご自身がご自身だけで決められたのか、例えば副市長であるとか部長であるとかですね、市の幹部の方と協議をして決められたのかですね。それが2点目です。それと、本人にですね、本人の意思確認を行ったのか。本人がどうしてもやりたい、もう1回やるんだというふうな覚悟をもってやられたのかですね。その部分をちょっと教えていただきたいというふうに思います。それと、もう1点、平成17年に合併当時、暫定の教育委員に任命された、それも市長がご提案されたんです。そのときに合併当初ですから、みなさん改選が一時期になると悪いということで、1年、2年、3年、4年という任期をつけられたんです。そのときに、清永氏を1年の任期に指定したのは市長ご自身なんです。なぜそこで1年の任期を決めて、1年しか教育長を、もうこの方は1年で任期を終える教育長なんだという判断をされた方を、また再々度、このようなかたちで教育委員としてお薦めになったのか。その当時、たぶん本人の意思確認もされたんだろうとは思いますが、どのような心境の変化とどのような実績の評価をなされて、このような提案になったのか、そういったところを総覧してお伺いしたいというふうに思います。

○議長（**淵野けさ子君**） 市長。

○市長（**首藤 奉文君**） お答えいたします。臨時会と本会議ということでありまして、今回、11月18日で任期が切れるということでありましたし、私自身も18日で本人の任期が切れるということでありましたので、そういう思いでありましたけれども、実際に議会済んで本人の意思を確認したら、まだやり残したことがあるという強い思いがありましたし、私自身も出来れば続けてやってほしいという思いが強かったんです。あの本会議の時点ではそこまでなかったんです。それが済んで本人の意思確認とか、そういうことをいたしまして、本人の意思も十分確認出来たし、そして私自身も今後続けてやってもらいたいという思いがお互いに一致いたしまして、そういうかたちになりましたので、今回のご提案、ご同意をいただくことになったわけでございます。それから—（「選考過程」と呼ぶ者あり）選考過程は、今回どういうふうに行われたかということですね、これは私自身がこれまでの清永教育長の教育行政に対する姿勢、そしてまた思い、そして情熱と、そういうものをずっと考えたときに、素

晴らしい、大分県でも素晴らしい教育長であるというふうに認識に至ったわけでありまして、年を追うごとに、教育長のこの教育行政に対する取り組みというのは、本当に素晴らしいと思っております。ですから、選考過程ではありませんけれども、私は出来るだけ由布市の教育の発展のためには、この方を長くやっていただきたいと思っておりますけれども、それと任期というかたちで私自身もはっきり踏ん切りがつかなかったということで、選考過程につきましては、私自身がその思いからこういうふうに人事したわけでございます。それから本人の意思は、私も議会済んで、どうしてももう切り替えなくてはいけないかという思いがあったわけでありまして、本人を呼んで意思確認をいたしました。そのときに、彼はまだいまやる途中であるというかたちで、ちゃんと完成させたいという強い思いが伺えましたので、そういうことを確認をして、今日に至ったわけでございます。本人の意思も十分強いものがあると思います。健康状態も心配される方もおられると思いますけれども、彼は今年2回由布山頂まで登ったりして、そういう健康についても十分耐えうるだけの強い体力も持たれておるというふうに私は認識をいたしているところであります。それから、かつて1年でなぜっていうかたちでありましたけれども、新市が発足いたしまして、新しい教育委員さんをとというかたちで全てを切り替えていくのはいいかなというふうに思いました。しかしながら、いままでの教育委員会の流れを汲む方が1人残って、そして教育委員会をリードしていける方が1人1年間残っていただきたいという思いでありましたから、旧教育委員さん1人残っていただいたという単純な考え方でありました。ほかに何かー（「いいです」と呼ぶ者あり）

○議長（**渕野けさ子君**） 7番、高橋義孝君。

○議員（**7番 高橋 義孝君**） 市長のご説明からも、この方をお薦めしますよという熱意がまず感じられないのが非常に残念なんですね。市長、お答えになっていないのがですね、なぜ1年の任期でしか、合併当時ですよ。たぶんそのときも教育委員になったら、教育委員に任命されたら、教育委員会で互選されて、清永氏が教育長になるということは、たぶん市長もその思惑があって教育委員さんに任命同意を出されたんだと思うんですね。その方の任期をなぜ1年にしたのかっていうことを私はお伺いしたかったんですよ。当然それであるならば、4年の任期を清永氏に与えて、4年間教育長をさせればよかったですよね。ということの真意をお聞きしたかったんですけど、それは結構ですが、教育に対する熱意がということをお聞かせいただけますけれども、私は由布市の教育の現状を憂う1人でありまして。これ以上由布市の教育を停滞させてはいけないという思いで、いま質問させていただいてますけれども、さきほど定例会の後に本人の意思を確認されたということなんですけれども、それがまずやっぱりいかなものかと思うんですね、市長。平成20年第4回臨時会のときに、直近の定例会で委員さんの人事案件を提案するのが当然でございましたけれども、私どもの不手際といいますか、ちょっと議案を出す

のが遅れましたので、議運の方に間に合わなかったと。すれすれになりましたので、取り下げをして臨時会になったというふうな次長の答弁ですし、市長も直近の定例会がいいだろうということなんですね、言われているんですよ。にもかかわらず、意思確認をなぜ、9月前にしておけばいい話なんですよ。そうすれば、教育長さんの実績なんかも委員会付託をされて、きちっとその中で審議をして、経て、結論が出せると思うんですね。前回にもこういった指摘をされているにもかかわらずですよ、今回またもう直近になって本人の意思を確認されて提案されたってということなんですけど、私が何を言いたいかっていうとですね、広く人材、適材を求めるには、意思決定のプロセスが大事なんですよ、市長。広く色んな人たちからの知見を得てですね、市長ご自身だけで考えられるんじゃなくて、優秀な部下がいっぱいいるわけですから、それと長年の教育の経験もあるわけですよ。そういう人たちを本当にご相談を申し上げて、由布市の教育、どうにかもう頑張っていきたいって思う、その姿勢が感じられないのが私残念なんですよ。だから、定例会までに意思決定をする過程が大事、だからこそ定例会にきちっと上程をして、みなさんに審議をしていただくっていう姿勢ですよ。だからこそ直近の定例会に出して下さいねっていうことを再度再度言ってますけども、相変わらず由布市の行政手法は議会軽視だというふうに私はいまでも思ってるんですけども、その点いかがでしょう、市長。もう一度だけですね、なぜ前回の定例会に間に合わなかったのかということをお聞きしておきたいと思います。まだあります、市長。それと市長は実績を評価されたということなんですけども、私が見受けますと、入学式や卒業式の指導のあり方ですとか、例えば組合員が主任手当を拠出していると、これもう全国的に有名ですけども、北海道の事例ですね。それを昭和58年にもう勧告が出されているにもかかわらず、それを私が問いますと、とんちんかんな答弁しか返ってこないという、それくらいの認識の薄さなんですよ。こういう大事に関してですね。それどころか、事業改善においては性教育のいかがわしいビデオを子どもたちに見せたりした、そのことをいかに改善したのかっていうフィードバックもこちらにはないんですね。だから、なにをもって本当に教育を正常化して頑張ってもらってるのかっていうのが全く伝わってこないんですね。きょうもワンペーパー準備していただいたのは非常にありがたいと思いますけども、これだけでは項目の羅列ですから、実際に清永氏がどのような実績をされたかっていうのは評価出来ないんですね。だから、市長がどこをどう評価されてですね、再度4年間、この方に、というふうに思っているのかですね、そこを強くアピールしていただけるとありがたいと思うんですけども。

○議長（淵野けさ子君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 決して思いが弱いということではありません。この方がいま大分県でも優秀な教育長であるという認識を強く持っておりますから、ぜひそうしたいと思います。た

だ、さきほど言いましたように、9月の定例会でっていうのには、私自身も迷いがあったと、本人は11月18日に終わるといふことで、新しい方をするのには、9月の議会では2ヶ月間もそういう間があると、そういう後釜を決めて、2ヶ月をおくということが、やっぱりどうかなという判断を職員とも相談をいたしまして、それであれば臨時議会がよかろうと、直近のですね。そういうかたちで私は判断をしておりました。そのときはまだ本人の意思を確認しておりませんでした。議会が済んで、いよいよ決定しようというときに、本人を呼んで、どうかという意思を確認したときに、まだやり残したこともあるしという。私自身も、ぜひともいまの途中で、この由布高校の一番大事なときに、いまこういうかたちで由布高校を、学力向上、授業の向上のために真剣に取り組んでくれているわけでありまして、そのなかの1つに、連携型のために、いま研究指定校を受けたんですけれども、部会として校長部会、企画部会、研究担当者部会、学力向上班、キャリア教育班、特活や指導班部会、進路指導を考える会とか、それを中学校と高校の先生方と一緒にしてそういう部会をつくって、6年間を見越した教育をいま始めているわけでありまして、いままで中学校の先生と高校の先生の融和がなかなか進まなかった分を、彼は中学校に行き、直接担任の先生や校長先生と話をし、高校に行き、校長や担任の先生と話をしながら、その接点としてジョイント役をずっとこれまでしてきた。やっとなんか軌道に乗り始めたという状況であります。それから、そういうことから、いま由布高校の子どもたち、当時上位で入った子どもっていうのは少ないし、県立高校の普通高校から比べたら若干落ちるかなという生徒が、いま2年間の習熟度別とか、あるいは少人数学級での教育の中で、教科によっては、よその普通高校の上位に行く子どもたちが、どんどん生まれ始めてきたと。そういうような実績は、やっぱり中学校の先生と高校の先生が、しっかりお互いに連携をとりながらやれていると、そういうすごい力を発揮していると私は思います。それから、子どもたちの学力の向上につきましても、大分県は全国で大変低いレベルでありまして、しかし、その低いレベルは大分県も秋田県とかそういう先進地に行って、先生を取り込んで、そのいいところを大分県の中に持ち帰って、そして大分県の学力向上に繋がりたいという思いで、その一環として由布市もそれに取り組んでいるわけでありまして、そういうこととは別に学力向上に向けての取り組みも、これまでたくさんやってきておりまして、県の全国の学力テストはもちろんですけれども、由布市内で独自で学力テストを行う等して、それぞれの研究を行っているわけでありまして、そういう成果が徐々に出てきて、中学校の英語と数学については、大分県の中でもトップ3に入るだけの由布市の子どもたちがいます。平均点がトップ3になっております。小学校においては、1教科はありますけれども、1教科はトップ5位に上昇してきていると。いま、由布市はそういう子どもたちの学力がどんどん伸びてきている、これは教育長の情熱が先生方を動かし、そして由布市の子どもたちの学力の向上に繋がってき

ていると、私は強くその点に評価をしているところであります。以上、私が強く思っているのはそういうところでありまして、大分県で最高の教育長であるというふうに認識をして、強い思いでおりますので。

○議長（**渕野けさ子君**） 7番、高橋義孝君。

○議員（**7番 高橋 義孝君**） いま市長から、るるご説明がありましたけども、中高一貫もちろん力を入れていかなければならないんですけどね、県立高校でありますから、それはやはり県教委が、県教委が本腰になってやるべきことでありますから、私たちはそこに連携しながら、やはりかかわっていくという姿勢がまず大事であろうと思いますし、それ以前にやはり小・中ですね、子どもたち、市立の小・中学校があるわけですから、そこにやはりきちっと視点をおいて活動を続けていってほしいなあというふうなのが、基本中の基本だろうとは思いますが、そのへんの改善が、私はいまの方ではちょっとリーダーの資質に欠けるのではないかなあという思いが強いものですから。県内の18市町村の教育長さんたちをずらっと見てもですね、最高齢でありますし、もう長い期間やられているんですね。よその地域を見ますと、やはり世代を引き継ぎながら、若い人材を登用して、新しい感覚で教育再生していこうという取り組みをかなりの市町村が取り組みをされてるというふうに私は認識をしております。その中において、大分県は全国的に低いんですけども、大分県の中においても、由布市は非常に低い位置にあるということが県教委でも言われてですね、それがもう固定化しつつありますよということも、この場で何回か提案をさせていただいたんですね。やはり私は新しい血を入れて、きちっと次の世代を育てることも、教育者としてですね、育てることも重要なのではないかなと思うんですけども、その点、最後1点だけ、市長、再度お答えいただけますでしょうか。

○議長（**渕野けさ子君**） 市長。

○市長（**首藤 奉文君**） 学力につきましては、大分県は全国でも低い方でありまして、その中で由布市はどんどん伸びてきているという県教委の評価を受けておりまして、私自身は大変嬉しく思っておりますし、それはいまの教育長の成果であるというふうに思います。と同時に、若さとか年齢とか言うんですけども、この教育につきましては、やっぱり豊かな経験と、そしてやっぱり人物も最優秀の人物でなければ、そういう教育は携わっていけないのではないかと、若さだけで教育改革をやっていくというのではなくて、やっぱり人生経験豊かな方がやるべきであると思っております。イギリスの詩人のサミュエル・ウルマンという人がこういうふうに言っています。「青春とは人生の一時期のことではなくて、心のあり方のことだ。人は歳月を重ねるから老いるのではない。理想を失うときに老いるのである」というふうに言っています。私は、彼はそういう由布市の将来の理想をもって進んでくれていると強く思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。



○議長（**渕野けさ子君**） ほかに質疑はありませんか。13番、太田正美君。

○議員（13番 **太田 正美君**） 市長にお尋ねしたいんですが、由布市になりまして、最初の議会の際に、この議案書と同じ議案書で5名ですかね、教育委員さんが出ました。そのときにもこれと同じように、任期については何も書かれておりませんでした。それで、私は質疑の中で、教育委員さん、出された任期があるのではないですかというふうにお尋ねをしましたときに、初めてそれぞれの委員さんの任期を、そのときに言われまして、そのときに清永教育長については1年という提案をされました。今回も任期は書かれておりません。当然、これ推察するに4年間だと思います。そうすると、我々議員も含めて、市長、またそこにおられる部課長の大多数の方が、4年後にはほとんどいない、仮に再選されなければならないというわけです。当然、市長よりも教育長はこれからすると1年、任期が長いわけですよ。そうしたときに、前回と同じようなことがまた起こるのではないかと思うんですよ。要するに1年だけ余分に、結局市長選挙がありましてとしたときに、結局教育長だけ1年長いわけですよ、任期が。そのときに、私はその1年後に教育委員の任命がありました。そのときに、清永さんを慰留しないで、二宮さんを市長は新しい教育委員に推挙されました。ということは、その時点で、私はいま市長が仰られていることとは正反対の、清永さんを見切ったから新しい教育委員をそこに推挙したのではないかと、私はがっかりしました、実は。私はその時点で清永さんを再任して、もう4年間やってくれないかと頼むだろうと、私は買っておりました、清永さんを。ところが、二宮さんにバトンタッチをされました。その心境といまの心境がどう違うのか。私はそこでちょっと矛盾するのではないかと思ってるんですよ、昔を振り返ったときに。それで、それだけ言っている評価をしているんなら、なんでその4年前に清永さんを慰留しないで見切ったのか。本人もたぶんそう思ったと思うんですよ。そのへんのことが、やはり一貫性がないんじゃないかなと私は思う。そしてまた4年後に同じような手続きをまた市長は踏むんじゃないかという気がするんですが、そのへんの配慮があったのかどうか。お伺いしたいと思います。

○議長（**渕野けさ子君**） 市長。

○市長（**首藤 奉文君**） 当時、さきほど高橋議員にもお答えいたしましたけれども、教育委員が一斉に辞めるということは、教育行政上相応しくない。ですから、時期ごとに年数をおいて、5人の退職の年限を1年ずつずらしていくということでありました。さきほど申しましたとおり、新市になりましたから、新しい教育委員会というかたちでありましたけれども、従来の教育委員会の流れとか、そういうもののためには、前の方が1人残るのが相応しいというかたちの思いでありました。正直に言いまして。そして、それが終わったんで、新たな方をというかたちでしたわけでありまして、特に何とかということではありませんでした。そういう地教法によりまして、任期が4年と。それからその任期期間というかたちだけのかたちでありまし

て、そういう思いまではまだ未熟であったというふうにとっていただければいいかと思っております。

○議長（**渕野けさ子君**） 13番、太田正美君。

○議員（**13番 太田 正美君**） 最初のときはいいと思います。でも、1年経過したときに、いまさっき高橋議員に説明したような清永さんの評価がなかったというふうに、いま市長は仰ったというふうに理解していいんですか。それと、市長が改選されて、最初の所信表明のときに、もう由布市は十分融和が図られたというようなことを仰いました。覚えてますか。その中で、いま私が感じるに、市長が庄内出身だから、結局3町の融和を図るために、副市長が湯布院、きょうは教育委員ですけど、教育長が挾間からというような、まだそういうとらわれ方が残っているのではないかと感じるんですが、そのへんいかがですか。

○議長（**渕野けさ子君**） 市長。

○市長（**首藤 奉文君**） なんか質問がちょっとずれてきたような感じがいたしますが、合併して融和が出来たからといって、バランスを考えているっていうわけではなくて、やっぱり人物が、いい人物がいれば、そういうかたちがどこでも、どの地域からでもいいんじゃないかなと思っております。

○議長（**渕野けさ子君**） ほかに質疑はありませんか。11番、溝口泰章君。

○議員（**11番 溝口 泰章君**） 重なるところがあるので割愛する部分もあるますけれども、またちょっと出てくるかもしれませんが、1点ですね。今回市長が清永さんを教育委員へということを決めて上程するそのプロセスの中に、適職だと認める複数の方々を果たしていたのかどうか。そして、その後、清永さんをその中から選んで、お願いして、確認して、そして今回の上程になったのかどうか。それと、もう1点。そういう候補者の中に、候補者として75歳の高齢を迎えて79まで、俗に言う後期高齢者を選んだ、このお歳の肉体的な考慮を市長がなさっていらっしゃったのか。もしもということもある、そういう可能性で激務をこなすというだけの根拠が、さきほど由布山に何回か登ったということですけど、私60になってまだ毎年20回くらいは、冬にも登って楽しんでおりますけれども、そんなに疲労するものじゃなくて、歩きの延長に山登りはありますから、その価値判断、基準だけではちょっと無理じゃないかなといま感じたものですから、そのあたり2点ほど、ちょっと根拠をお教え下さい。

○議長（**渕野けさ子君**） 市長。

○市長（**首藤 奉文君**） さきほどから申しておりますけれども、私はこの教育長の再任されてから2年間というのはじっくり見てまいりました。その色々な取り組みの中で熱心というか、情熱をもって取り組んでくれておりまして、報告を受けるたびに本当に素晴らしいなど、そしてまたその情熱に感謝をしていたわけでありまして、他の候補を考えるという状況ではありま

せん。最終的に本人がどうしてもということであれば、そこで考えなくてはいけないという腹でありましたから、他の候補については考えておりませんで、議会が終わって直ちに呼んで確認したというかたちであります。それから—（「体力」と呼ぶ者あり）年齢ですね。もうさきほど言いましたように、教育に携わる人っていうのは、若い人ももちろん大事なんですけど、やっぱり経験豊かな、そして思慮深い方、そういう方が私自身は相応しいと考えております。そしてまた、いまの由布市の中で、この教育行政を乗り切っていける力を持っている人は彼しかないというふうに、そういう思いをするように至ったわけでありまして、今回またみなさん方をお願いをするわけであります。

○議長（**渕野けさ子君**） 11番、溝口泰章君。

○議員（**11番 溝口 泰章君**） 私自身ですね、校長経験者の中からずっと教育長が出ている、教育委員の中の教育長、教育関係者で互選でというその伏線はあるんですけども、その校長経験以外で相応しい方を人選するという姿勢は、市長にとって非常に重要なことだと思うんです。そのあたり、いまの答弁で、それまでの実績をずっと見てきて、この人しか継続する人はいないという根拠をもって判断なされたということですけども、そのへんは私疑問に思えます。なぜならば、この3町に校長経験者以外に、例えば次長職経験者等も候補として考えるべきだと思いますし、民間の、教育に造詣の深い、これは社会教育なり学校教育だけじゃなくてですね、「教育とは」と大上段に構えることの出来るような考え方を持っている人も多数見受けられるんです。そのあたりの考慮というのは今回なかったと仰ってますけども、市長にとってはあるんじゃないかと思うんです。そのへんをもうちょっと。

○議長（**渕野けさ子君**） 市長。

○市長（**首藤 奉文君**） そういうことも全くなかったという、それはありません。やっぱりどなたかこの地域にいないかと、そして色んな方をやっぱり見てきましたけれども、いまのこの窮状の中で、由布市の現状の中で、これを乗り越えていける方はやっぱり普通の方がぼつとなつてやれるというような状況ではないという判断をしておりました。

○議長（**渕野けさ子君**） 11番、溝口泰章君。

○議員（**11番 溝口 泰章君**） 実は私、先達てこの議案が当然上程される前ですけども、清永さんに、教育長にキャリア教育の充実を求めてお願いに行ったんです。職業教育ですね。これをもっと、1回やっていただいて、パイロットとかですね、東京のパティシエとか美容師さんとか、犬の手入れをする何とかさん、ああいう人がずらっと並んで、子どもたちの前で自分の職業紹介をして、そして子どもたちの質問を受け付けるというNPOが大分市にありまして、そこに頼んで来てもらってやったんですけども、そのことで教育長、ああいうかたちをもっとやってほしいと、ついては、私その下調べでそのNPOに行ったら、由布市で毎年3地域の

中学校でまわせば、3学年のうち1回は、要するに学年を1、2、3年生ではなくてですね、何年生かに絞ってですね、100人くらいの学校が湯布院ですね、80、そして120くらいだと、そういうスタッフを呼んで、身近にもものすごく触れるじゃないですけど、壇上と壇の下じゃなくて、相互に行き来しながらキャリアを、職業を教えていけるから、ぜひやっていただきたいんだと言ったら、「そうなんです、僕も重要だと思ってる」と。「そういうことが私はやりたくてうずうずしてるんですけども、これは後任に申し送りますから」と、そのようにお答えになったんです。なもんですから、残念ですねと。先生がそういうふうにも仰って下さって、後任の方にそれを申し伝えてくれるということは、非常に私も嬉しいから、また今度新任の教育長が出てきたときに、私が改めてお願いにあがりますよという経緯があったもんですからね、今回びっくりして。どこで変節が起きたのかと。そもそも清永さんが、その時点では後継者、後任ということを実際に口に出されていて、今度また変わったというのは、何かドラマがあったのかなと思っているんですけども、そういう流れを作り出すっていうのも、市長の人選の中に一貫した、清永さんに対する思いが伝わらなかった部分があると思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（**渕野けさ子君**） 市長。

○市長（**首藤 奉文君**） 今回の教育長につきましては、11月18日が任期切れというかたちで、私自身もそういう思いがあったんです。本人もその思いであったと思います。そして、委員会とはお別れの会の日にかまで設定しようかというような状況になろうかという状況だったと思いますけれども、再度私自身は、やっぱりこの人が一番相応しいという思いから、議会済んで彼を呼んで確認したら、そういう任期はあるけれども、もしやり残したこともあるので、やれるものならやってみたいという強い意思を聞きました。それで私自身も、私の思いも彼の思いも一致したところで、ではほんなら願いますというかたちでなったわけでございます。正直言いまして、そのとおりでございます。

○議長（**渕野けさ子君**） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（**渕野けさ子君**） 質疑なしと認めます。これから討論を行います。討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（**渕野けさ子君**） 討論なしと認めます。7番、高橋義孝君。

○議員（**7番 高橋 義孝君**） 採決の方法でありますけれども、起立採決でなく無記名投票を求めます。

○議長（**渕野けさ子君**） ただいま、7番、高橋義孝君から「採決については無記名投票にされたい」との要求が出されました。この場合、会議規則第71条の規定により、3人以上の要求

を必要とします。よって、この要求に賛成の方は起立願います。

(議員 20 名中 4 名起立)

○議長(淵野けさ子君) この要求は、3名以上の要求がありますので成立いたしました。よって、この採決は無記名投票で行います。ここで暫時休憩いたします。(「再開は、議長」と呼ぶ者あり) 投票用紙等の設営ですので若干の休憩です、整い次第。(「出ていいんか」と呼ぶ者あり) 閉鎖です。

午前 11 時 09 分休憩

.....  
(会場準備)  
.....

午前 11 時 10 分再開

○議長(淵野けさ子君) 再開します。議場を閉鎖して下さい。

(事務局、出入口閉鎖)

○議長(淵野けさ子君) ただいまの出席議員数は 21 人です。ここで立会人を指名いたします。会議規則第 31 条第 2 項の規定により、立会人に鷺野弘一君、廣末英徳君、及び甲斐裕一君を指名します。それでは、投票用紙を配付します。

(事務局、投票用紙の配付)

○議長(淵野けさ子君) (「議長、ちょっと投票用紙にはどう書くんですか。賛成か反対か」と呼ぶ者あり) いまから言いますので。投票用紙の配付漏れはありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長(淵野けさ子君) 配付漏れなしと認めます。投票箱を点検します。

(事務局、投票箱の点検)

○議長(淵野けさ子君) 異常なしと認めます。念のため申し上げます。本案に賛成の方は「賛成」と。反対の方は「反対」と記載願います。ただいま投票を行います。事務局長が議席番号と氏名を読み上げますので、順次投票を願います。なお、投票中、賛否の明らかでない投票、及び賛否の表明をしない投票は「反対」とみまします。それでは点呼を命じます。

○事務局長(長谷川 澄男君) それでは私からお名前を呼び上げますので、順次投票をお願いいたします。なお、敬称は略させていただきます。(「立会人は先にしないと」と呼ぶ者あり) 1 番から投票します。よろしいですか。もう記入されました。

(事務局長点呼 ～ 議員順次投票)

1 番 鷺野 弘一君

2 番 廣末 英徳君

3番 甲斐 裕一君	4番 長谷川建策君
5番 二ノ宮健治君	6番 小林華弥子君
7番 高橋 義孝君	8番 新井 一徳君
9番 佐藤 郁夫君	10番 佐藤 友信君
11番 溝口 泰章君	12番 西郡 均君
13番 太田 正美君	14番 佐藤 正君
15番 田中真理子君	16番 利光 直人君
17番 久保 博義君	19番 工藤 安雄君
20番 生野 征平君	21番 佐藤 人巳君

○議長（**浏野けさ子君**） 投票漏れはありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（**浏野けさ子君**） 投票漏れなしと認めます。投票を終了いたします。立会人の方は所定の位置に着席願います。

（立会人、立会人席へ移動）

○議長（**浏野けさ子君**） 開票を行います。

（事務局、開票）

○議長（**浏野けさ子君**） 投票の結果を報告します。投票総数20票、有効投票20票、無効投票ゼロ、有効投票のうち、賛成15票、反対5票、以上のとおり賛成多数です。よって、議案第80号、教育委員会委員の同意については、同意することに決定しました。議場の閉鎖を解きます。

（事務局、出入口開鎖）

○議長（**浏野けさ子君**） ここで、清永直孝君の入場を求めます。事務局、連絡をお願いします。

（清永直孝君、入場）

○議長（**浏野けさ子君**） ここで教育長のご挨拶をお受けします。（「教育委員会委員」と呼ぶ者あり）教育委員会委員。（「その前に告示をせな悪いけん」と呼ぶ者あり）ただいま教育委員会委員の任命につきまして、同意されましたのでお知らせいたします。ここで、教育委員会委員の清永直孝氏にご挨拶をお受けいたします。

○教育長（**清永 直孝君**） 教育委員の再任にご同意をいただきまして、大変ありがとうございます。この場に立って、文字通り、身の引き締まる思いであります。由布高の再生問題、それから適正規模に伴う小学校の統廃合問題、学力向上問題、校舎の耐震化等に伴う耐震改築の問題、それから総合型地域スポーツクラブが設立していないところもありますが、その設立並び

に成果の問題、そして生涯学習、市民のニーズに応えるような、そういう構築をどうするかという課題が多々あります。いままで積み上げられた経験と、それを基にしたがらの初心にかえって、1つ1つ課題解決に向けて頑張っていきたいと思います。私に対するご批判もあるというのは百も承知しています。そのご批判は私に対する期待感の表れだと認識して、精一杯職務の遂行に努めてまいりたいと思います。今後とも議員のみなさま方には、いままで以上のご指導ご鞭撻をお願いいたします。決意の表明とします。よろしく申し上げます。（拍手）

○議長（**渚野けさ子君**） ここで暫時休憩いたします。再開は11時35分といたします。

午前11時24分休憩

午前11時35分再開

○議長（**渚野けさ子君**） 再開いたします。次に日程第5、議案第81号、監査委員の選任についてを議題として質疑を行います。ここで、地方自治法第117条の規定により、田中真理子さんの退場を求めます。

（田中真理子君、退場）

○議長（**渚野けさ子君**） 質疑はありますか。12番、西郡均君。

○議員（**12番 西郡 均君**） 宮崎の、環境衛生組合で視察に行ったときに、ちょうど挟間で話し合いがあるということで、急遽挟間の議員で集まって話した中で、田中さんが監査委員になるということで、湯布院や庄内の方たちもそれになんか同意しているということで、そのときに私念を押ししたんですけども、先般、太鼓、挟間の太鼓何とかの女性太鼓ですが、あの補助金の代表者であるということを知ったので、本人に「そういう代表者っていうのをきちっと辞めてからやって下さい」ということをお願いしたら、「いや、代表は、挟間の太鼓は池見さんという方ですか、別の女性だということと言われてたんで。いずれにしてもそういうことがあると困ると思ってたら、こういうのがきました。未来クラブという、この理事長に田中真理子というのを受けているんですね。そして、190万ですか、青少年健全育成の委託事業をやっております。聞いたら、契約したときの理事長は前任者だけども、いま理事長であると。そして、昨日の全員協議会で、きちよくれ祭り実行委員会会長、田中真理子で文書がきてんですね。その補助金を受ける団体の代表、あるいはこういう委託契約を受ける理事長、由布市はこういうことで監査委員に対して非常に節度がないんですね。かつて、宮崎識見者が土地開発公社の監事をやって、これ除斥事項で土地開発公社の監査が出来なくなるから辞めろっというんだけど、辞めないまま任期がくるまで一というか、本人は途中で辞めましたけど。監査委員自身を辞めましたけれども。先般、監査委員であった議会から出ている人も、自身が有機農業の研究会の代表であるにもかかわらず、議会のこの場で、堂々と補助金を出せというこ

とを一般質問で言っていました。本来、通告にそういうふうに書いているわけですから、監査事務局が「監査委員としてこういう質問は不適切ですよ」と一言言ってやれば済むことですね。今回も田中議員にこの2つの事例を「あなたは表に出ているけども、未来クラブときちよくれ祭りを辞めたんですか」と言ったら、「当局が辞めんでいいっち言うた」っち言うんですね。誰がそんなけしからんことを言ったんですか。監査委員としての除斥事項になるわけだから、相応しくないですよっち言うのが当然なんですよ。どなたが言ったんですか。

○議長（**渚野けさ子君**） 監査事務局長。

○監査・選管事務局長（**佐藤 忠由君**） 監査委員事務局長の佐藤でございます。いま言われた質疑につきましてご答弁を申し上げます。これについては、地方自治法117条、いま言われたように除斥という項目がございます、この中読みますと、直接の利害関係のある事件については、その議事に参与することが出来ない。ただし、議会の同意があるときは会議に出席して発言することが出来るということで、除斥すれば問題ないと考えております。

○議長（**渚野けさ子君**） 12番、西郡均君。

○議員（**12番 西郡 均君**） それは議会の議事の場合なんですよ。監査の職務として、監査をやるのに、その補助金が適切か、あるいはまた委託契約が適切に行われているかという当事者が監査出来ることないのは当たり前のことじゃないですか。だから、宮崎さんも平気で土地開発公社の監事をやったり、前任者も自分の所属する団体の補助金の要求を、一般質問で堂々とやったりということをするんですよ。監査事務局がそんなことだから、そんないい加減な監査委員が生まれるんですよ。相応しくないですよと、なぜきちんと言えんのですか。あと答弁はいいです。もう反対するしかありませんから。

○議長（**渚野けさ子君**） ほかに質疑—小林華弥子さん。

○議員（**6番 小林華弥子君**） 田中真理子さんのことについての同意、不同意という件ではないんですが、この際ですから、ちょっと監査委員制度についてご質問しておきたいと思います。1点は、いま国の地方自治法見直しの議論の中で、議選の監査委員制度を廃止しようかという議論が出ております。それはなぜかっていうと、議会選出の監査委員は、議会で選出されたにもかかわらず、市長が任命をして、市長の監査組織に入るわけですね。この監査組織っていうのは、市長の内部監査組織になるわけですし、市長の内部監査組織の中に二元代表制の一機関、代表機関である議員が、市長の下部内部組織に入るのはいかがなものかということで、二元代表制の観点から、議会選出の監査委員というものを市長の下の組織に入れるのは相応しくないという議論がいまされているそうです。なので、議会選出の監査という制度そのものを地方自治法から見直そうという動きがあるようです。このことに関して、これは議会選出の監査委員が、いま福岡県の田川市で議会選出の監査委員が、市長に対して監査指摘をしたことを市



長が守らなかったのも、監査委員と市長が対立しているというような状況が生まれていて、問題が大きくなっているようなんですけど、こういうことを含めて、今後の監査のあり方なんですけど、いまは地方自治法が改正されていないので、議会から選出するのはありだと思んですけど、1つの提案含めてなんですけど、いま監査委員が2人います。1人は議選の監査で、1人が民間から登用されています。ただ、現場の声等聞きますと、非常に監査事務が膨大になっていて任務も激務なので、場合によっては監査委員を3名に増やして、出来れば例えば地域別に、挟間出身、湯布院出身、庄内出身のようなかたちの監査委員さんを選んで、地域の事情に詳しい人に監査をお願いしてはどうかと。そうなった場合に、3人の監査委員のうち議席を持っている監査委員の割合が非常に小さくなりますので、そういう意味でも議会選出に頼らずに内部監査のバランスがよくなるのではないかというアイデアもあるのではないかと思うんですけど、今後監査委員について、市長の方針としてそういうことを検討されるのはどうかなというふうに思うんですけど、監査委員制度そのものについてもどう考えるか、含めてお答え下さい。

○議長（**渕野けさ子君**） 市長。

○市長（**首藤 奉文君**） ちょっと全然検討していませんので、きょうは答えられません。

○議長（**渕野けさ子君**） いいですか。ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（**渕野けさ子君**） これで質疑を終わります。これから討論を行います。討論はありませんか。12番、西郡均君。

○議員（**12番 西郡 均君**） 同僚議員の質疑の中にありました、議会から出すという云々というのがありますが、私は議会から当然、議会が行財政全般について監査をきちっとすべきだということで、代表だというのが当然だというふうに考えます。しかし、節度ある監査委員をきちっと選んでほしいんですね。その識見者から選ぶのも役場のOB職員を選んだり、議会から選ぶのも役場のOBを選んだり、自治法で複数選んじやいかんというふうになっているにもかかわらず、法の主旨をくみ取れなくて、そして推薦する議会も議会の方やけど、今回そういうことがあってOBは遠慮しようということで田中さんになりましたけども、こっちが念押ししていたにもかかわらず、当局に聞いたら、いや、そういうことやっとなら大丈夫ですよと。その除斥案件のときだけ、それを識見者にさせりゃいいんじゃないかみたいなことで、そういう指導を監査事務局がすること自体がけしからんし、由布市の監査のいまの程度が一貫して、もう宮崎識見者の監査委員のときからそうなんですよ。本人がそこへんで節度を持ってくれるだろうと期待しとったら、きょう聞いたら、いやいや、いいち言うたけんそのまままだ続けてますなんちゅうことを平気で言ってんですね。これじゃ困るということで、やっぱり節度ある人をきちっと監査委員に選ぶようお願いして、今回の田中真理子監査委員については、不

同意、賛成出来ません。

○議長（**渕野けさ子君**） ほかに討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（**渕野けさ子君**） これで討論を終わります。これより議案第81号を採決します。本案は原案のとおり選任することに同意する方の起立を求めます。

（議員20名中19名起立）

○議長（**渕野けさ子君**） 起立多数です。よって、議案第81号、監査委員の選任について、原案のとおり同意することに決定しました。ここで、田中真理子さんの入場を求めます。事務局、連絡をお願いします。

（田中真理子君、入場）

○議長（**渕野けさ子君**） ただいま、監査委員の選任につきまして同意されましたのでお知らせいたします。ここで、選任をされました田中真理子さんにご挨拶をいただきます。

○監査委員（**田中真理子君**） ご同意をいただきまして、ありがとうございます。いま思い起こせば、小野二三人議員とは同期でして、予算、桁について、あのとき本当よく勉強しました。今回は、その思いをしっかりと受け止めて、微力ではありますが、監査として役に立たせたいと思います。これから私自身も身を引き締めて頑張りたいと思いますので、よろしく願いいたします。（拍手）

○議長（**渕野けさ子君**） 以上で、本臨時会の議事日程は全て終了いたしました。

---

○議長（**渕野けさ子君**） 市長、閉会の挨拶。市長。

○市長（**首藤 奉文君**） 平成22年第2回臨時会の閉会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。本日提案いたしました3つの議案につきまして、真摯なご審議をいただき、ご承認並びにご可決をいただきまして、誠にありがとうございます。さて、秋も深まってまいりまして、由布市におきましても、神楽祭りやきちょくれ祭り、湯平での山頭火展等々、それぞれの地域で多彩な催しが予定をされております。また、山を装う秋が過ぎれば、本格的な寒さの到来となります。開会の折にも申し上げましたが、地域の宝であります高齢者をはじめ、市民の健康を脅かすインフルエンザ等の感染拡大には十分な警戒態勢をとってまいりたいと考えております。議員のみなさまにおかれましても、健康に十分ご留意をいただき、より一層ご活躍されますようお願い申し上げます。閉会のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（**渕野けさ子君**） それでは議長から一言ご挨拶申し上げます。以上をもちまして、本日の第2回臨時会は終了いたしました。議員各位には健康にご留意のうえ、議員活動にお励みい

ただきますようお願い申し上げ、閉会にあたりお礼の挨拶といたします。これにて、平成  
22年第2回由布市議会臨時会を閉会いたします。大変にご苦労さまでございました。

午前11時48分閉会

---

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

議 長

署名議員

署名議員